

# 2018 年度（第 40 年度）事業報告

自 2018.4.1～至 2019.3.31

2018 年度の日本経済は引き続き緩やかな回復基調を維持したが、12 月頃から世界経済の不透明感の影響を受けるようになった。加えて、人手不足は幅広い分野で顕在化しており、これを補うため生産性向上や働き方改革は業種や企業規模を問わず多くの企業にとって喫緊の課題となっている。私たちの京都に目を向けると、インバウンドを中心に引き続き観光が順調に推移した。

このような情勢の下、本会は創立 70 周年という節目を迎え、「政策提言団体」という原点に立ち返った活動を展開した。2018 年 4 月には創立 70 周年記念式典を開催し、創立 70 周年記念提言『「グローバル都市・京都」のビジョン』を発表した。

部会活動においては、従前からの活動を継続しながら、他の部会・委員会との連携や運営改善に注力した。

委員会活動においては、京都市内の 4 つの大学・学校法人との産学連携協定に基づいて専門の研究者の協力を得ながら論点を整理し、5 つの研究委員会がそれぞれ政策提言をとりまとめた。

本会全体、またそれを支える事務局においては、ガバナンス強化のための諸規則・ルールの整備と京都経済センターへの事務局移転が無事完了した。また、文書のペーパーレス化や会員専用 Web サイトの積極的活用など事務局の生産性向上の基礎が固まった。次年度以降もこれらを継続し、さらなる改善をめざす。

以下は、各部会・委員会他の活動の概要である。

## 〈 部 会 〉

### 1. 総務部会

本部会は、担当する会務、財務、広報及び事務局運営等の各分野において、適切な管理を心がけ、本会の円滑な運営と組織の活性化に向けて取り組んだ。

本年度は、昨年度に引き続き、本会の規程の見直し、整備に取り組み全規程の点検整備を完了、本会のガバナンスの強化、事務局体制のさらなる整備に繋げることができた。

また、会員の例会や委員会等への出欠管理を Web やメールで行うシステムの整備に取り組み、次年度5月からの運用開始を予定している。これによりスピード感ある情報の受発信と、事務局業務の効率化が図れると見込んでいる。

### 2. 例会部会

本年度の例会は、講師の招聘による講演会形式を中心に運営した。

会員の興味・関心が高いテーマを積極的に取り上げ、金融・経済に対するテーマだけでなく、地方自治や、文化出版、伝統産業における若手経営者の新たな活動について講演を行った。

また、提言を目的とする委員会との連携を実施した。交通委員会とリンクする西成活裕氏（東京大学先端科学技術研究センター 教授）を招聘し、「渋滞を科学する」として、車から経営改善に至る渋滞のメカニズムと、その改善策について取り上げ、参加者から多くの反響があった。

幅広いテーマ設定は例会の活性化に繋がるとともに、講演会形式により、講演内容に集中し、落ち着いた雰囲気の中で運営することができた一年であった。

### 3. 交流部会

本年度は、会員の相互理解や親睦、自己研鑽に資するべく、海外視察団派遣や新たな事業を立ち上げた企業の視察を中心とする企業ビジットを開催した。併せて他同友会主催の事業へも積極的に参加し、会員同士の懇親・交流を深めることができた。

まず、2018年10月28日(日)～11月4日(日)の日程にて、「ドイツ・デンマーク視察団」(団長：鈴木順也代表幹事、総勢23名)を派遣した。ドイツのシュトゥットガルト、ミュンヘン、デンマークのコペンハーゲン、スウェーデンのマルメを歴訪し、都市交通施策及びイノベーションを起こすためのシステムや研究所を中心に視察した。

欧州では都市の持続可能性を出発点として、明確な方針とデータの裏付けのもと、行政機関と事業者の協力によってダイナミックに、スピード感をもって政策が進められている。

このことは、具体的な施策と合わせて、交通施策やイノベーションを考える上での貴重なヒントとなり、交通については提言に繋がった。

また、企業ビジットでは、2018年7月に(株)バイオーム、2019年3月にD-matcha(株)、(株)スプレッドテクノファームけいはんなを視察。いずれの企業も新しい分野へ挑戦している起業家であ

り、参加者は新たな“気付き”を得るとともに、会員間の交流・親睦を深める良い機会となった。

他同友会の主催事業では、第 31 回全国経済同友会セミナー（開催地：栃木）に 18 名、第 116 回西日本経済同友会会員合同懇談会（開催地：香川）に 11 名が参加した。

さらに本年度は中部経済同友会と合同懇談会を 2018 年 12 月に京都で開催。総勢 42 名にて京都リサーチパークを中心に視察をし、懇談会を開催した。

#### 4. 青年政策研究部会

本部会では、矢継ぎ早に押し寄せる新たなトレンドや、社会のニーズの多様な変化を受け入れつつも、「私たちは、真にどのような価値提供を行うべきか、また、社会から何を求められているのか」を追求する必要性から、本年度は、「本質を究める」をスローガンに以下の 3 つの方法の例会を実施した。

講師例会では、仕掛学の第一人者、ペッパー開発会社の代表者、有名塾の人気アドバイザーなど、特徴的な講師より新たな学びを得るとともに、特別例会では、小泉進次郎議員とあんどろ裕議員と、人生 100 年時代について語る貴重な機会を得た。

訪問例会では、ホノルルと東京を訪問した。ホノルルでは、目覚ましい発展を今なお続ける姿に地元企業の勢いを感じる一方、地価・物価の高騰による地元市民の生活苦など、インバウンド効果の光と影を学んだ。東京では、Airbnb Japan(株)や日本アイ・ビー・エム(株)をはじめ、各分野の最先端の情報に触れることができた。

交流例会では、前年に引き続き、支店長部会との共催例会を開催し、「京都らしさ」についてディスカッションし、「京都の未来」「事業承継」についても議論を深めることができた。

上記以外の例会も、会員相互の理解や交流を深めつつ、部会員が「物事の本質を見極められる経済人」として、さらに成長することを念頭におきながら、活発な活動を行うことができた。

#### 5. 支店長部会

本部会では「外から見た京都」をテーマに活発な活動を展開した。

計 10 回開催した例会の中では、3 回のパネルディスカッションと 1 回のグループディスカッションを開催し、部会員が議論する機会を多く持つことができた。

講演例会では、京都を代表するプロスポーツ企業であるパープルサンガ、会員企業である日東薬品工業(株)、(株)トーセや、(株)京都新聞社から、特色ある企業の講演を聞く機会を得た。

訪問例会では、織物文化を継承しながらグローバルに展開する(株)川島織物セルコンや、EV の需要拡大とともに今後益々発展が見込まれる(株)ジーエス・ユアサコーポレーションの視察・講演を実施し、ものづくり企業の実情に触れる機会を得た。

パネルディスカッションでは、「京都の建築」「地域創生」をテーマに取り上げたほか、1 月の青年政策研究部会との共催例会は、「事業承継」などをテーマとした活発な議論を通じて双方のコミュニケーションが進み、新たな気付きを得ることができた。

## 〈 委員会 〉

### I. 特別委員会

#### 1. 創立 70 周年特別委員会

本委員会では、2018 年 4 月 25 日(水)に創立 70 周年記念式典を開催し、創立 70 周年記念提言『「グローバル都市・京都」のビジョン』と本会の新しいビジュアル・アイデンティティ（以下、VI）を発表した。

記念提言は、創立 70 周年の節目に京都の未来をグローバル視点で展望したもので、京都市を中心とするグレーター京都の産業の振興とそれを支える人材の多様性にフォーカスした、主に企業経営者に向けた提言・呼びかけである。新 VI は、本会のあるべき姿（伝統、先進、グローバル）をシンボルマークやロゴタイプ等のビジュアル・デザインで表現したものである。加えて、使用する色やフォント等を規定したデザイン・ルールを定め、記念式典を皮切りに本会が使用する各種アイテムへの展開を開始した。その他、記念式典では新たに作成した 70 年の歩みを振り返る DVD 上映を行った。

記念式典以外では、交流部会と連携してドイツ・デンマークへの海外視察(代表幹事ミッション)を企画・実行したほか、70 周年誌を作成した。また会員へのアンケート結果を踏まえて Web サイトのリニューアルを進めた（新しい Web サイトは 2019 年 4 月に公開予定）。

### II. 研究委員会

#### 1. 観光委員会

本委員会は、若林靖永氏（京都大学経営管理大学院 教授）及び前川佳一氏（京都大学経営管理大学院 特定准教授）のご協力のもと、勉強会や議論を重ね、提言をとりまとめた。

提言では、「経済と文化の持続可能性を高める京都観光」というビジョンを打ち出し、観光客急増に伴う負の側面に適切に対処するとともに、未来志向で観光の質を高め量の拡大を可能にすることを提案した。そのための具体的な施策として、観光ビジネスの高収益化、マーケティング視点でのエリア分散を通じた受け入れキャパシティの拡大、ICT 活用による観光体験の見直し等を挙げている。また、これらを推進する人材の確保育成や京都観光の司令塔としての DMO の機能強化も、重要な課題として取り上げている。

#### 2. 交通委員会

本委員会は、宇野伸宏氏（京都大学大学院工学研究科 教授）のご協力のもと、京都市内の交通体系のあるべき姿について未来志向で検討するべく、勉強会や議論を重ねた。

委員会では、京都市内の交通事業者によるパネルディスカッションを通じて、具体的な交通課題

を学ぶとともに、課題解消のための具体的な施策について議論した。

議論の中で浮かび上がった、3つのテーマである「歩いて楽しい空間の実現」「市内の交通渋滞の緩和」「公共交通の利便性向上」に基づき、提言『「歩くまち・京都」の実現に向けて』を作成した。

提言では、中心商業地・主要観光地周辺の歩行者専用空間の整備や、ロードプライシングによる自動車流入量の制御、バスにおける運賃支払いのキャッシュレス化・接続車両の採用等を挙げている。

### 3. 景観委員会

本委員会は、久保田善明氏（富山大学大学院 教授）のご協力のもと、京都市内の景観の在り方について検討すべく、勉強会や議論を重ねた。委員会では、無電柱化の現状や他都市の事例等を学び、大阪のエリアマネジメントによるまちづくりを視察するとともに、京都のめざすべき景観について議論し、提言『未来の京都の景観に向けて』をまとめた。

提言では、①電柱・電線・支線・信号線等の地中化による「空の大きなまちづくり」、②快適な歩行者空間をめざす「歩きたくなるまちづくり」、③まちに個性と賑わいを創出する「活力あふれる仕組みづくり」の3つのビジョンと、それらを実現するための具体策について言及した。

### 4. 就職・採用・教育委員会

本委員会は、サトウタツヤ氏（学立命館 総合企画室長）のご協力のもと、京都が「学生のまち」であるにも関わらず地元企業に就職する人が少ないという課題にフォーカスし、このギャップを解消するための施策を提言にとりまとめた。

提言では、京都企業が学生と接点を持ち京都で働くイメージを持ってもらうための手段として、低回生時からのインターンシップ拡充を「京都モデル」として提案した。また、個々の京都企業がやりがいのある仕事、成長の場、働きやすい環境を用意して学生に選ばれる企業になる必要性を説くとともに、住む場所や働く場所としての京都の魅力向上の重要性にも言及している。

### 5. 北部委員会

本委員会は、青山公三氏（京都府立大学京都地域未来創造センター 統括マネージャー）のご協力のもと、京都府北部地域の5市2町の観光人材をテーマに活動を行った。委員会では、城崎温泉街の取り組み事例を学ぶとともに、観光人材の最大の課題である人手不足の問題について議論を重ね、提言『北部の観光産業発展のための経営改革と人材育成』をまとめた。

提言では、宿泊業の経営者に対し、人材の定着・確保に繋がる労働環境改善と生産性向上、それらを実現するための経営改革について提案したほか、本地域の観光産業発展を担うマーケティング人材や外部人材の必要性についても言及した。

## 〈 準会員組織 〉

### 企業幹部研究会

本研究会は、「グローバル都市・京都に向けた、京都企業のあり方を考える」を年間テーマとし、講師例会、自主例会、企業視察、合宿など多彩な活動を経て、充実した研究会活動を実施することができた。

講師例会では、平林幸子氏（京都中央信用金庫 副会長）から、多様性の中の人材育成についてのご講演と、女性や高齢者の社会進出についての事例報告をいただいた。

合宿例会では、石川県を訪問し、(株)明石合銅、津田駒工業(株)、小松精練(株)、(株)箔一を視察し、大変有意義な合宿となった。

企業視察では、村田機械(株)を訪ね、村田大介氏（村田機械(株) 代表取締役社長）から、「多角化経営の苦楽」と題したご講演をいただくとともに、工場見学を通して、同社の成長と発展の経緯を知ることができた。

第5回例会は、大川昌男氏（(株)堀場製作所 常務取締役）から「外からみた京都、内からみた京都」と題し、内側（堀場製作所）と外側（日本銀行）の視点を通して講演いただき、京都企業の特徴について考える機会を得た。

※会社名・役職等は開催時のもの

以 上